



TITLE:

石川常雄教授略歴・著作目録

AUTHOR(S):

CITATION:

石川常雄教授略歴・著作目録. 経済論叢 1992, 150(4): 120-125

ISSUE DATE:

1992-10

URL:

<https://doi.org/10.14989/44862>

RIGHT:

經濟論叢

第 150 卷 第 4 号

石川常雄教授記念號

献 辞	瀬 地 山 敏	
バーナード理論をめぐって	飯 野 春 樹	1
日本經濟再生の条件	西 村 功	17
金融自由化と公的金融機関	内 田 滋	29
中央銀行はその独自情報をどのように 用いるべきか	島 本 哲 朗	48
香港金融の外貨化傾向	佐 藤 進	64
総投下労働量・所得率と經濟發展	中 島 章 子	86
日本的經營財務と企業特殊的熟練	池 尾 和 人	102

石川常雄 教授 略歴・著作目録

平成 4 年 10 月

京 都 大 學 經 濟 學 會

石川常雄 教授 略歴

- 1929（昭和4）年12月12日 石川一雄，カツの長男として京都府（京都市下京区柳馬場通仏光寺上る永原町149）に生まれる
- 1949（昭和24）年3月 京都府立鴨沂高等学校卒業
4月 京都大学理学部入学
- 1953（昭和28）年3月 同学部動物学科卒業
4月 京都大学大学院経済学研究科修士課程入学
- 1955（昭和30）年3月 同科同課程修了
4月 同科博士課程進学
- 1958（昭和33）年3月 同科同課程（単位修得）退学
4月 和歌山大学助手（経済学部）
- 1959（昭和34）年7月 アメリカ合衆国へ出張（1961年6月まで）
- 1961（昭和36）年4月 和歌山大学講師（経済学部）
- 1965（昭和40）年4月 和歌山大学助教授（経済学部）
10月 関西大学経済学部非常勤講師（1969年3月まで）
- 1968（昭和43）年4月 和歌山大学大学院経済学研究科担当
- 1969（昭和44）年3月 和歌山大学退職
4月 大阪府立大学助教授（経済学部）
- 1971（昭和46）年4月 大阪府立大学大学院経済学研究科担当
- 1972（昭和47）年4月 関西学院大学経済学部非常勤講師（1973年3月まで）
- 1973（昭和48）年3月 大阪府立大学退職
4月 京都大学助教授（経済学部）
京都大学大学院経済学研究科担当
- 1977（昭和52）年6月 国際交流基金によるシンガポールおよび連合王国へ出張（1978年8月まで）
- 1982（昭和57）年3月 郵便貯金振興会によるドイツ連邦共和国へ出張（同年4月まで）
- 1983（昭和58）年8月 京都大学教授（経済学部）
- 1984（昭和59）年5月 京都大学経済学博士
- 1985（昭和60）年4月 岡山大学経済学部非常勤講師（1986年3月まで集中講義）
- 1992（平成4）年10月 景気動向の調査のためドイツ連邦共和国，連合王国，フランス，スイス，イタリアおよびシンガポールへ出張（同年

同月末まで)

所属学会 金融学会, 理論・計量経済学会, 生活経済学会

石川常雄 教授 著作目録

著書・編書

通貨変動理論の研究 (大阪府立大学経済研究叢書第31冊)	大阪府立大学経済学部	1970年
マネタリズム (金融経済基礎コース 別冊5)	全国地方銀行協会	1971年
金融論入門(共著) (有斐閣双書)	有 斐 閣	1975年
金利自由化と政策金融の役割 (近畿郵政局貯金部 委託研究)	近 畿 郵 政 局	1981年
金融概論(共編) (有斐閣大学双書)	有 斐 閣	1985年
現代の金融政策 ～マネー・サプライをめぐる理論と実証～	東 洋 経 済 新 報 社	1985年

論 文

二つの利子理論をめぐる	経 済 論 叢 第80巻第2号	1957年8月
貨幣需給の投資乗数効果に与える影響	経 済 論 叢 第80巻第6号	1957年12月
日本経済の変型期を分析する(シンポジウム 馬場正雄他)	経済セミナー 第73号	1962年8月
利子論の新局面	金融ジャーナル第3巻第9号	1962年9月
最近の計量経済学的研究をめぐる(A. J. メイグス著『自由準備と貨幣供給』海外文献紹介第2部)	金融ジャーナル第4巻第4号	1963年4月
オーバーローンとインフレーション	経 済 評 論 第12巻第6号	1963年6月
パティンケン:貨幣・利子・価格(現代の古典)	経済セミナー 第90号	1963年12月
資本蓄積とマクロ分析	経 済 理 論 第79号	1964年5月
価格機構(問題1;3)	篠原三代平・鎌倉昇編『演習近代経済学第2巻価格』有斐閣	1964年6月
ケインズ・モデルと価格決定機構	金融学会報告 22	1965年12月
インフレの現状をどう見るか	金融ジャーナル第8巻第2号	1967年2月
ミルトン・フリードマンの「貨幣数量説」について	経 済 論 叢 第100巻第3号	1967年9月

ポリシーミックス～その評価と今後の問題点	金融ジャーナル第8巻第11号	1967年11月
貨幣数量説の生成と展開	経 済 理 論 第102号	1968年3月
物価と金融	館龍一郎・鎌倉昇編『金融経済講座』第I巻 東洋経済新報社	1968年4月
現金通貨変動の計量分析～昭和29年～41年	経済理論第106号 (所収金融学会『金融論選集16』)	1968年11月
物価問題をどうみるか	金融ジャーナル第9巻第12号	1968年12月
三十二億千三百万ドル～なぜたまったか? どう使うか?	バンキング 第256号	1969年7月
M. フリードマン・A. J. シュワルツ 共著『合衆国貨幣史』(海外文献紹介)	金融ジャーナル第10巻第8号	1969年8月
ウィリアム J. フレーザー Jr. 著『貨幣の需要』(海外文献紹介)	金融ジャーナル第10巻第10号	1969年10月
ミルトン・フリードマンの貨幣理論について	金融ジャーナル第11巻第6号	1970年6月
日本の金融構造(1)	金融ジャーナル第12巻第1号	1971年1月
日本の金融構造(2)～商業銀行制度の特色	金融ジャーナル第12巻第2号	1971年2月
日本の金融構造(3)～わが国金融市場の特質	金融ジャーナル第12巻第3号	1971年3月
日本の金融構造(4)～長期金融市場の特質	金融ジャーナル第12巻第4号	1971年4月
日本の金融構造(5)～わが国の金融政策	金融ジャーナル第12巻第5号	1971年5月
日本の金融構造(6)～金融政策の特質	金融ジャーナル第12巻第6号	1971年6月
腰を据えた変動相場制のメカニズム	実業の世界 第68巻第11号	1971年11月
新しい成長と金融(意識調査回答)	金融ジャーナル第13巻第7号	1972年7月
貨幣需要関数の実証的研究	金融学会報告 36	1973年3月
金融政策の反省と展望(特集ドル・ショック後の金融政策の反省)	金融ジャーナル第14巻第9号	1973年8月
過剰流動性とインフレ	貿易と関税 第21巻第11号	1973年11月
新金融調節方式の問題点	東洋経済 近代経済学シリーズ No. 27	1974年2月8日
1929～33年アメリカ大不況の金融メカニズム	金融ジャーナル第16巻第1号	1975年1月
新貨幣数量説と金融政策	川口弘編著『現代金融論 セミナー経済学教室6』	1975年3月
通貨供給(第5章); 新古典派モデルと貨幣(第6章); 金融政策の有効性(第10章)	田村茂・原正彦共編『金融論入門』有斐閣	1975年5月
金融政策の運営をめぐる日本銀行の独立性	東洋経済 近代経済学シリーズ No. 33	1975年7月10日
低成長経済における金融の役割	金融ジャーナル第16巻第13号	1975年11月

経済循環と貨幣・金融	水野正一・花輪俊哉編『金融の経済学』有斐閣選書	1976年3月
貨幣と利子	荒憲治郎ほか編『経済学 5 所得の理論』有斐閣双書	1976年3月
国債の景気・金融への実効性～その効果と影響を考える	貿易と関税 第25巻第4号	1976年4月
大量国債発行時代の金融問題	日経センター会報 第275号	1976年7月1日
金融政策論の新局面～クラウディング・アウト効果とマネー・サプライ	季刊現代経済 第23号	1976年6月
世界経済体制の推移とアメリカ経済	本間長世編『総合研究アメリカ 第7巻』研究社出版	1976年8月
マネー・サプライとインフレーション	経済評論 第24巻第14号	1976年12月
シカゴ学派の領袖（新金融理論講座 M. フリードマン）	東洋経済 第4003号	1977年4月28日
貨幣とマクロ経済活動	稲毛満春編『マクロ経済学入門』有斐閣新書（同新版1989年3月刊）	1977年6月
過剰流動性と金融政策	経済評論 第28巻第3号	1979年3月
低成長下の金利と金融政策	金融ジャーナル第20巻第4号	1979年4月
金融政策（特集 80年代の日本経済の進路・課題）	貿易と関税 第28巻第1号	1980年1月
シンガポールのアジア・ダラー市場～その生成と発展	経済論叢 第125巻第6号	1980年6月
クラウディング・アウト効果をめぐって	経済論叢 第126巻第3・4号	1980年10月
マネタリズムと「高金利政策」	金融ジャーナル第21巻第11号	1980年10月
窓口指導の今後のあり方（アンケート回答）	金融ジャーナル第22巻第11号	1981年12月
概説 第一次石油危機後の金融政策	東洋経済近代経済学シリーズ No. 60	1982年2月18日
「均衡財政下の国債発行」再考	経済論叢 第131巻第3号	1983年3月
金融イノベーションの進展と金融政策	金融ジャーナル第24巻第7号	1983年7月
金融市場と金利体系	花輪俊哉共編『金融概論』有斐閣	1985年1月

英文論文

Some reflections on the “new scheme for monetary control” by the Bank of Japan

Kyoto University
Economic Review

Vol. 43, No. 1/2
Apr.-Oct. 1973

翻 訳

- | | | |
|-----------------------|---|---------|
| ロバート・G・ブラウン「適正在庫量の推定」 | バースク・チャップマン共編『コンピューター時代の経営管理手法』 日本経済新聞社 | 1968年7月 |
| A・エクスタイン「経済史上の遺産」 | A・エクスタインほか編『中国の経済発展』 創文社 | 1979年6月 |
| サミュエル・ブリテン「マネタリズム」 | 『ブリタニカ国際年鑑1982』 TBSブリタニカ | 1982年4月 |

辞 典

- | | | |
|---|---------|----------|
| 『体系金融大辞典』
クリーピング・インフレーション；ギ
ャロッピング・インフレーション；ハ
イパー・インフレーション；真正イン
フレーション；準インフレーション；
リプレスト・インフレーション；デフ
レーション | 東洋経済新報社 | 1966年10月 |
| 『近代経済学の基礎知識』
貨幣の中立性；内部貨幣と外部貨幣；
貨幣数量説；新貨幣数量説；インフ
レーション；インフレーションのもたら
す影響 | 有 斐 閣 | 1971年11月 |
| 『日本経済事典』
通貨増発とインフレーション | 講 談 社 | 1973年3月 |

書 評

- | | | |
|----------------|---------------|-----------------|
| 館龍一郎・浜田宏一著『金融』 | 理論経済学 第25巻第1号 | 1974年4月 |
| 鈴木淑夫著『現代日本金融論』 | 東 洋 経 済 | 1974年11月
23日 |

そ の 他

- | | | |
|--|-----------------|---------------------|
| アジア地域日本研究講座報告
南洋大学 1977～1978 国際交流基金 | | 1978年 |
| 中谷先生を偲ぶ
(編集)『中谷實教授遺稿と追憶』 | 経済論叢 第130巻第3・4号 | 1982年10月
1983年4月 |